

令和7年度 第2回 氷上回廊水分れフィールドミュージアム運営委員会 会議録

日 時：令和8年2月26日（木）16:00～17:18

場 所：丹波市立氷上回廊水分れフィールドミュージアム 2階 多目的スペース

出席者：三橋委員長、松井副委員長、松原委員、大木委員、梅垣委員、田村委員、山田委員
永井委員、吉住社会教育・文化財課長、足立副課長、中本主事、大嶋館長、東指導
補助員

1 開 会

2 あいさつ 委員長

3 報告事項

(1) 令和7年度の事業報告 別紙資料 P.1～P.14

(委員長) インスタグラム等はよく投稿されています。インスタグラムで目にする機会が多いと一回行ってみようと思う人も出てきます。こういったことが集客につながっているのだと思います。人がたくさん映っている写真をよく使用されているのはとても良いことだと思います。ただし、そういった写真を使用する際には、高校生や小学生が来たときに顔が映らないようにうまく写真を撮る技術が求められます。加えて、学校の許可も必要になる場面もあると思います。

(委員) 団体受け入れについて、去年19団体、今年は21団体となっています。内訳はどのようなになっていますか。

(館長) 記載している団体は2階の多目的室やギャラリーを使用した団体の数を挙げています。学校利用ではなく一般市民の団体の方で、書道教室や市外の観光団体などの数字を記載しています。

(委員) 教員研修会でも利用させていただきました。とても好評でしたので再度の利用を考えています。

(委員) 「モズのはやにえ2025」は多くの関心と呼んだということで、とても良い企画だったと思います。「丹波の生活と川」はローカルな話題のため、入館者の増加にはつながりにくいという予測がありますが、個人的には、近くの川のことでも地元の人は知らないこともあるのではないかと考えています。特に舟運については知ってる人が多いと思いますので、身近であっても、舟運のような話題を掘り下げていくのはとても学びにつながると思います。私もバスツアーを申し込みましたが、早々と定員に達していました。人気のある企画だと思いますので、今後も開催していただきたいと思います。

(委員) バスツアーは、友の会で以前から開催したいと思っていましたが、なかなか実現できませんでした。今回、水分れフィールドミュージアムの方からこの企画の実施について友の会に声をかけていただいて、そのおかげで話がどんどん進み、大変ありがたかったです。私の周辺でもバスツアーに行きたかったという人が多かったです。加古川舟運はあまり知られていないのかもしれませんが、高砂へ向かうハイウェイだったんだと改めて地域の人に知っていただく良い機会となりました。このような企画を再度開催しても良いのではないかと思います。

(委員長) 開館して以降、新たにバスツアーを実現できたのが一つの大きな成果だったのかなと思います。

(委員長) PCはどのような不調だったのでしょうか？

(館長) 電池切れです。13ページのマーカーで指しているところの先が電池でした。

(委員) 学校対応のところで、丹波市内の学校対応が少なく思います。これについて対応をどうすべきか常々思っています。小学校の場合は3年生が中心になっていますが、時期によって展示するものが変わるので学校としても難しいのか、そのあたりを教育委員会の方でも何らかの形で学校対応していただき、施設を見学できるようにしていただけたらありがたいです。

(副課長) 定例の小学校・中学校の校長会があるのでそういった機会を利用して、水分れフィールドミュージアムだけでなく、市内の青垣いきものふれあいの里や資料館等の施設を含めて学校との連携を深めていきます。

(委員) 春日地域や氷上地域の学校の利用が多いという傾向があります。青垣地域はいきものふれあいの里がある、山南地域だとたんば恐竜博物館があるというような関連はありますか。

(副課長) 移動にかかる時間も考慮して、近くの施設に行くといった傾向も出ているかもしれません。

(委員) その辺をよく調べて、傾向をみていただきたいと思います。

(委員) 学校が施設を利用する際のバスの手配は行政が行うということはあるですか。学校単位でお金がなくて連れていけないということはありませんか。

(副課長) 市の公用バスが2台あります。学校の利用であれば無料で使用可能です。ただし、時期的なことや行事の兼ね合い等もある中で、現状バスの取り合いになっている状況はあります。学校間で調整しながら、予約をしてそれぞれ目的に応じて利用しています。

(委員) みわかれいきもの調査隊の項目について、今後市内の学校と共同イベントを実施したいと記載があります。具体化していただき、来館者に展示を見てもらうきっかけにしたいしたいと思います。

(委員長) 共同のイベントのイメージが結構難しいと思われます。水分れフィールドミュージアムのやり方はたくさん学校に連絡して参加してもらって「これに参加したら賢くなるよ」「未来が広がる」「知識が広がる」などの言い方で学校の人にきてもらう、自発的に参加したい子が参加していただくことが良いと思いました。

(指導補助員) みわかれいきもの調査隊が活動するのは土日が中心になります。遠方の宝塚から来ている子もいるので実際に共同で実施するのは難しい。「こんな活動をしているから参加してみませんか」と周知することや、例えば、共生の広場とか科学の祭典とか発表の内容を作っているのも、どこか一角において地元の小学生がきた時に見てもらう。あるいはこちらの方から「こういう風にして、君たちと同じくらいのこどもたちも参加して作っている」ということも紹介ができると考えています。少しでも生き物が好きな子が増えてくれたらいいなと思っています。そういった視点から進めて行くことを考えています。

(委員長) それこそ、SNSで成果発表、水分れフィールドミュージアムだけでなく丹波市のSNSに「こんな活動がある」など、年に1回程度は企画展と一緒に紹介してもいいのではないかと思います。

(委員) 12ページに学芸員の実習生と記載されていますが、学芸員の資格を得るためには博物館実習が必須になっています。博物館実習生が水分れフィールドミュージアムに来たことはあるのでしょうか。それとも今後実習生を受け入れるという体制にされていくのでしょうか。ここに書いてある出前授業1回で8名とは分かりづらいのですが。

(委員長) 人と自然の博物館で博物館実習を行っている際に海老原さんに1日だけ講習に来

ていただいて、全国の参加者8名に鳥のはく製のことをレクチャーしていただきました。水分れフィールドミュージアムで解剖は若干はばかれるところがあります。もちろん水分れフィールドミュージアムでも学芸員の実習の受け入れは可能です。その他の施設は受け入れていますか。

(課長)植野記念美術館が実習生を受け入れています。

(委員長)それと同じようにすれば不可能ではありません。人と自然の博物館に学芸員実習を申し込みする子は丹波市出身が多いです。夏休みに実家に帰ってきて10日間参加します。10日間地元出身の子がいてくれて、周りの友達に施設のことを宣伝してくれたら裾野が広がるのでそれとも良いと思います。特に生物系の子がいるなら調査隊の日と合わせてスタッフとして来てくれたら子供の世話をする人が増えるので喜ばれると思います。

水分れフィールドミュージアムであれば、舟運のことをやってる人文系の考古の学芸員が来たら、今まで出来なかった説明ができるので、上手に地元出身の子にもう一度来てもらうような取組を検討していただけたらと思います。

(委員)小中学校の受け入れの学年が偏っていると思います。小学校は毎年ある程度どの時期に何をしているのか決まっていると思いますが、どのような単元かは、教科書などを確認すれば、ある程度水分れフィールドミュージアムとの関連性を持たせるところが見えてくると思います。他の学年の利用を伸ばしたいのであればそういったところもみてもらえたら増えるのではないかと思いますので、ご検討いただけたらと思います。

(委員長)来館された学校の目的を把握する必要があります。環境の体験学習で近くにきたのか、川の水のことで総合的な学習の時間で来たのかというところを整理しておいて来やすくする工夫も必要です。学校の先生は転勤がありますので、水分れフィールドミュージアムの印象が良ければ違う学校に行っても利用していただけることもあります。その逆もあります。工夫していただきたいと思います。

(指導補助員)中学校であれば1年生、小学校であれば3年生から5年生。学習する単位によってそうなっているのだと思います。小学校3年生であれば社会科で生活、地域を知りましょう、川と生活とか舟運について勉強したい、舟運の解説をしてくださいというところがあります。中学生であればアントレプレナーシップ教育というのがあり、その中で地域のことを知っていこう、地域に出ていくことをされています。もう一つは、2年生のトライやる・ウィークの下準備ということで1年生が来てれています。福知山付属中学校については、純粋にこの館の内容を学びたいということで詳しい解説を依頼され、面白い質問が出たりして良い学習をして帰られました。

(委員長)特に中学1年生のアントレプレナーというのは何を伝えますか。

(指導補助員)丹波を知る、丹波を学ぶというのが大きなテーマになりますが、総合的な学習の時間を通じて、例えば丹波で独自な形で事業を立ち上げた方のお話を聞くことや、あるいは実際にいろいろなところに出て行ってインタビューをするというようなことをしながら色々な地域とつながっていこう、学校の授業では学べないことを学んでいく、人との対話を通じて学ぶ、アポイントを取るところから勉強という考え方でされています。

(委員長)そうすると、資料などをアントレプレナー用に用意するほうが良さそうですね。高校のSSHでもレクチャーしますが、多くの方は教員出身で、企業といわれても関わったことがなく中々難しい実情があります。そこに焦点を絞って上手な教え方、特に丹波の立地、地形、歴史のメリットを知ってそれがビジネスにつながっているというようなポイントが伝わり、実際にビデオで5分ぐらい撮り、丹波市内でベンチャー企業でやられているところは結構ありますので、水が良いからこういうことができているとか、交通の便が良

かったからこれだけ企業があり、昔からこういうことができているということなどは伝えられると思います。

(委員長)令和7年度を取組の目標と達成率について、全部を実行するのは中々困難です。それでもこのように点検していただいていることがとても大切なことです。

4 協議事項

(1)令和8年度の取り組み(目標) 別紙資料 P.15

(2)運営に関する意見交換

(委員)博学連携の推進のところに、貸出標本の作製と貸出用キットの作製と記載がありますが、新たに作られますか。ワークショップ等で作るものを貸出として使うのか、館として独自で作るのか。作るとしたら予算を立てないといけないと思いますが、独自で作るのか業者に委託するのかどちらでしょうか。

(指導補助員)主に小学校や中学校を想定しています。今ある物で展示していない物が多くあり、きちんと整理できていない課題はありますが、子どもたちに「昆虫はこんなにきれいだよ」や、「カメムシはこんなにきれいなはねをしているんだよ」ということを見てもらうような形で進めたいと思っています。また、例えばドイツ箱を作っていくときにどのような道具を使うのかなどをセットとして貸出できるならば学校との行き来ができていくのではないかと考えています。

(委員)数年前に水分れフィールドミュージアムが「世界ふしぎ発見!」で取り上げられ、夜中に放映されました。この施設や分水嶺はもちろん水運などを公共の電波で取り上げられるとたくさんの方が来られると思います。BSを見ていると、浜名湖の近くで夜中に1両の夜行列車を走らせる企画をされ、普段では見られない夜景が見られる企画をされていた。水分れフィールドミュージアムでも常にアンテナを張り、企画があれば売り込んで発信できれば良いと思いました。

(委員)新しいことをするとスタッフや予算の関係もあるので、いきもの調査隊が行っていることや分水嶺などを発信できれば良いと思います。

(委員)地元が市島町で、横峯山という雲海がきれいな山があります。最近、地元が困るくらいオートバイの人があがってきています。「どうしてこの山を知ったのか」と尋ねると、みんなSNSで拡散しているとのことでした。例えば、水分れフィールドミュージアム付近で写真を撮ってもらって拡散してもらおうとか、本州で一番低い場所でまたいで写真を撮ってもらって拡散してもらおうと結構面白いなと思いました。

(委員)博学・博博連携の市内学校と連携した観察会・実習の実施と記載があります。10代の入館者が少ないといつも思っています。市内の高校生、市外の中学生に水分れフィールドミュージアムの魅力は何か、自分たちはどんな魅力を感じるとか、どういう発信をしたら中高生が魅力を感じるかなど鉄板的なことを教育委員会が主導をとって案内をして魅力を発掘させたり発信する機会をつくるのが大事だと思います。

(委員長)さっきのアントレプレナーの話と一緒に、丹波のブランド化の良さがいろんな活動につながっているところもあります。丹波の自然と暮らしてみたいな。丹波市のベンチャー企業で国から大きな認定をもらっているような会社もありますし、高校生が幅広く勉強できるのはありなのかなと思います。

5 その他

(1)令和8年度第1回運営委員会

開催時期：

(副課長)令和8年度第1回運営委員会につきましては、年度が変わりまして改めて日程調整させていただきます。

6 閉 会 副委員長